空気はやはり冷たい。千畳敷カールは日本の永河地形のうちでは中規模のものだという。このカールの中に断層が走っている。ここから山の斜面を登る。花崗岩がごろごろしているし，かなりの急斜面である。ところどころに雪が残っている。御岳は雲をかぶってその頭を見せなかったが，この巡検の３日間晴天にめぐまれ，最後の日には，日本アルプスの連山を仰ぐことができた。足にマメができたけれど，思い出に残る巡検だったと思う。　　（２年　三　浦　千代子）

東北北部巡検　　（正井先生）

昭和４６年３月１０日～１２日

２年生の春休みに春まだ浅い東北地方への巡検が，正井先生の御指導のもとに行なわれた。調査項目は都市調査（都市景観，都市分布）村落調査（農村・漁村）地名調査，レクリエーション調査等であった。

３月１１日午後１時３８分に平泉駅に集合した。春３月とはいってもまだ雪の残る風景であった。この日は中尊寺を見学しただけにとどまった。その昔藤原秀衡の作った平泉の町のおもかげはこの中尊寺に残っているにすぎない。町の中心もその当時とはまるで異ったものになっている。

１２日は平泉の町の調査を行なった。都市景観を見るために商店の種類と戸の開閉状態について，旅館から平泉の駅まで調査した。平泉を出発して盛岡経由で宮古へ向う予定であったが予定を変更して花巻経由で宮古へ向った。大部分の人は花巻経由であったが2，３人の人は盛岡経由で行き宮古でおちあうこととなった。花巻・陸中山田で下車して町の調査を行なったが，あいにく小雪がちらちらまう寒い日であった。山田線の車窓から見えるはずの三陸海岸も雪の中にけむってしまってはっきり見えなかったのは残念であった。宮古へ着いたのはもう夕方すぎであった。１日降っていた雪もようやくあがっていた。

巡検最後の日は宮古の町の調査を行なったのち宮古より約１０Kmほど北にある田老へ向った。田老は昭和８年の昭和三陸津波で死者が１０００人をこえる大きな被害を受けたが，その後，高さ８mの防潮堤が作られ，昭和３５年のチリ地震津波には被害を受けずにすんだ。防潮堤に守られた町は再開発され大きな道路が走り，新しい家がたち並んでいた。この田老の調査で東北巡検の日程を終わり，予定より早く昼すぎに解散になった。この後東北の春を楽しむ人，スキーへ行く人，帰京する人；とそれぞれ別れてこの楽しかった巡検の幕をとじた。　　（３年　松　下　恭　子）